

からのか 手紙

小林鷹之

TPP

交渉に参加すべきか否か

米国の「陰謀」?

農業の未来は

糾を力に。2011年 Vol.6 [討議資料]
自由民主党
千葉県第二選挙区支部 小林鷹之事務所発行
(八千代市・習志野市・花見川区)

編集後記

TPP(Trans Pacific Partnership)環太平洋戦略的経済連携協定とは何なのでしょうか。表紙の地図の白い○は、現在TPPの交渉に参加(予定・検討も含む)している国です。繋げてみるとぐるっと太平洋を囲むのがわかります。だから環太平洋という名前がついているのです。また報道では農業問題だけが注目されていますが、農業だけでなく工業や衣料品、通信、金融、保険、知的財産権のことまで、様々な分野のことを話し合い、ルールを作って、関税をなくし、自由に貿易をしていくじゃないかというのがTPPの概略です。自由貿易になると日本の製品を海外により多く売ることができるので経済が上昇していくかもしれません。一方海外の製品が安く日本に入って来るので、国内の産業に影響が及ぶことが予想されます。しかし世界は今、自由貿易の流れにあります。TPPに参加するしないに関わらず日本の経済を活性化させることは緊急の課題であることには間違いないようです。(スタッフ)

鷹之ブログ

ameblo.jp/kobahawk

日々のニュースを、わかりやすく解説しながら自身の意見を述べているブログです。ぜひお読み下さい。

twitter

twitter.com/kobahawk

1歳の娘のことから天気のこと食べ物のこと、気になったことをほぼ毎日つぶやいています。

ホームページ

www.kobayashi-takayuki.jp

小林鷹之についてもっと知りたい、ボランティアをお願いできる方、献金案内はこちらから。

ミニ集会の開催のお願い

小林鷹之事務所では

小林本人の意見を一人でも多くの方に伝えさせて頂くために、ミニ集会を開催して頂ける方を募集しております。5名様~10名様であっても小林鷹之本人がお伺い致しますので、お電話、FAX、メールにて是非事務所まで御連絡頂きたく存じます。

TEL:047-409-5842 FAX:047-409-5843
Email : info@kobayashi-takayuki.jp

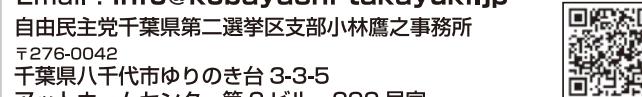
自由民主党千葉県第二選挙区支部小林鷹之事務所

〒276-0042

千葉県八千代市ゆりのき台 3-3-5

アットホームセンター第2ビル 202号室

右上のQRコードをご利用いただいて、小林鷹之ホームページからもご連絡いただけます。



活動報告

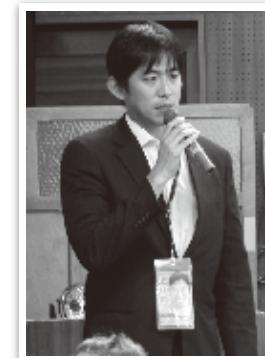


◀八千代市にて講演会を開催いたしました。参加して下さった皆様ありがとうございました。

▼花見川区のソフトボール大会にて始球式をさせていただきました。



▲地元の方々と国会議事堂見学に行きました。(中央:片山さつき参議院議員)
▼地域の会合にてご挨拶させていただきました。



▲地元の会合にて講演。多くのご質問を頂き小林も勉強になりました。



小林鷹之プロフィール

東京大学法学部卒業。ハーバード大学行政大学院修了。平成11年大蔵省(現財務省)入省後、財政運営から国際金融に至るまで幅広い分野の政策立案を担当。在米日本大使館に出向した際、急速に変化していく国際社会の中で、日本が為す術もなく取り残されていく姿に危機感を抱き、昨年春財務省を退職。公募を経て自由民主党千葉二区支部長就任。現在37歳。

TPP

TPP交渉参加に向けた動きが始まりました。国論が二分される中、私はTPPの「交渉プロセス」への参加をためらうべきではないと考えています。自由化という世界の大いな流れに対しても抗う行為が、国家の未来を切り拓くことになるとは思えません。流れの中に飛び込み、もがきながらも活路を切り拓いていく姿勢こそが、我が国の産業構造の効率を引き上げ、世界との競争に打ち勝ち、もう一度世界に誇れる日本を創つていくためには欠かせないと考えます。「情報不足」、「交渉に参加すれば撤退不可能」、「米国の陰謀」様々な声が聞こえます。確かに情報不足は事実。しかし、外交現場にいた私自身の経験に照らせば、重要な情報はそもそも交渉プロセスに入らなければ入手困難。また、主権国家である以上、交渉への参加・撤退の判断は我が国が堂々と下すべきもの。国民皆保険制度など死守すべきものを守れないと判断するのであれば、その時点で撤退すればいいだけの話。そして、



地元若手専業農家の方と農業の未来について語る小林鷹之

むしろ、我が国が是としてきた自由化に関して後ろ向きのメセージを世界に発することは国益上明らかにマイナスですし、何より、TPPを利⽤して、貿易立国である我が国の国富を増進していくためには以下の視点が必要です。

まず、米中の覇権争いを握る鍵は我が国の動向にあることを認識すべきです。最終的に、アジア太平洋自由貿易圏を目指す流れの中で、米国を中心のTPP、それとも、米国を除外したASEAN+3又は+6（日中韓+豪印NZ）がベースになるのか。その結果を左右しうる日本の立ち位置は米中両国にとって重要な問題。であれば、双方の交渉に参加し、時には橋渡しをして、国益の増進を図るべきです。勿論、海外へも積極的に輸出していく。国の財政状況が逼迫する中で、バラマキ（戸別所得補償）を続けるよりも、むしろ、農家の方々が一所懸命に実らせた美味しい農産物が、一人でも多くの消費者の食卓へと届くように、その販路拡大の努力を国が支援していくことが、農業の未来にとって遥かに有益です。最後に一点。TPP交渉参加に反対する政治家には国益を考えて反対する「政治家」と、自らの保身を考えてとりあえず反対する「政治屋」が存在します。国内最高の言論の府である国会は「政治家」同士が丁々発止の議論を戦わせる場でなければなりません。

小林鷹之

平成二十三年十二月吉日
自民党千葉県第二選挙区支部長

メールマガジン vol.6 より抜粋